

資料3-18. 三重県における赤潮発生状況(平成26年1月～12月)

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積(km ²)	発生水深(m)	最高細胞数(細胞/ml)	漁業被害(被害整理番号)	情報源
1 (I-1)	1.21-1.28	伊勢湾 (四日市市～伊勢市)	<i>Skeletonema</i> spp.	<i>Skeletonema</i> spp.は1.14には湾南部の明和町と伊勢市二見町で3,000細胞/ml強であったが、1.21には鈴鹿市～伊勢市の海域で急増し、県下の黒ノリ養殖漁場では湾最北部の桑名以外のはほぼ全地区で10,000細胞/ml以上となった。1.23には四日市港外でも34,150細胞が確認されている。最高細胞数は49,800細胞/ml(1.21, 津0m層)であった。1.28には減少が確認でき、津地区のみ10,000細胞/ml以上になった。 <i>Skeletonema</i> spp.の急増と同時に栄養塩が低下し、明和町から黒ノリの色落ちが始まり、10,000細胞/ml以下になった後も継続している。	不明	0m	49,800	①	漁業者、津農林水産事務所、三重県水産研究所鈴鹿水産研究室、三重県水産研究所
2 (S-1)	1.21-1.28	志摩度会 (鳥羽市答志島・菅島)	<i>Skeletonema</i> spp.	海域は異なるが整理番号1の <i>Skeletonema</i> spp.と連続した赤潮である。1.21には鳥羽市の離島周辺の黒ノリ養殖海域でも急増が確認された。最高細胞数は23,300細胞/ml(1.21, 桃取0m層)であった。菅島裏漁場と安楽島漁場では660～8,400細胞/ml以下であった。 <i>Skeletonema</i> spp.の急増と同時に栄養塩が低下し、黒ノリの色落ちは10,000細胞/ml以下になった後も継続している。	不明	0m	23,300	②	漁業者、鳥羽市水産研究所、伊勢農林水産事務所、三重県水産研究所鈴鹿水産研究室
3 (S-2)	3.3-3.6	志摩度会 (五ヶ所湾)	<i>Akashiwo sanguinea</i>	3.3に五ヶ所湾の迫間浦で <i>A. sanguinea</i> 赤潮による着色が見られた。最高密度は5m層の1,000細胞/mlであった。3.6にも着色が見られたが、最高で2m層の438細胞/mlと減少していた。	不明	5m	1,000	無	南伊勢町・南勢種苗センター
4 (I-2)	4.23-28	伊勢湾(湾央～西部)	<i>Prorocentrum minimum</i>	4.23に伊勢湾湾央部で <i>P. minimum</i> 赤潮による着色が見られた。最高密度は42,000細胞/mL(4.23, 常滑沖)であった。4.28には伊勢湾西部および的矢湾でも着色が確認された。	不明	0m	42,000	無	漁業者、三重県水産研究所鈴鹿水産研究室
5 (S-3)	4.28	志摩度会(的矢湾)	<i>Prorocentrum minimum</i>	整理番号4と同時期である4.28に伊勢湾と同種の <i>P. minimum</i> 赤潮による着色が的矢湾で見られた。密度は9,600細胞/mL(橘浦奥部, 表層)であった。	不明	0m	9,600	無	漁業者、志摩市、三重県水産研究所

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km ²)	発生水深 (m)	最高細胞数 (細胞/ml)	漁業被害 (被害整理番号)	情報源
6 (K-1)	4.28	熊野灘北部 (七里御浜沖)	<i>Noctiluca scintillans</i>	4.28に七里御浜沖合で <i>N. scintillans</i> 赤潮による着色が見られた。密度は1,380細胞/mlであった。	不明	0m	1,380	無	漁業取締船, 三重県水産研究所尾鷲水産研究室
7 (S-4)	6.6-13	志摩度会 (五ヶ所湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	5.27に五ヶ所湾の東側で <i>H. akashiwo</i> が確認された。6.4には西側でも確認され、6.6には迫間浦で着色が見られた。最高密度は145,000細胞/ml (6.6, 迫間浦中央)であった。6.13の時点では赤潮が継続していたが、6.16には解消していた。	不明	0m	145,000	無	南勢町種苗センター
8 (K-2)	6.23	熊野灘北部 (二木島沖)	<i>Noctiluca scintillans</i>	6.23に二木島沖合で <i>N. scintillans</i> 赤潮による着色が見られた。密度は4,200細胞/mlであった。	不明	0m	4,200	無	漁業取締船, 三重県水産研究所尾鷲水産研究室
9 (S-5)	7.1	志摩度会 (奈屋浦)	<i>Prorocentrum dentatum</i>	7.1に奈屋浦のかつらぎ池で <i>P. dentatum</i> 赤潮が発生した。細胞密度は10,000細胞/mlであった。	不明	底層	10,000	無	南伊勢町・南島種苗センター
10 (S-6)	7.4-15	志摩度会 (阿曾浦)	<i>Prorocentrum dentatum</i> <i>Karenia mikimotoi</i> <i>Heterocapsa circularisquama</i>	3種の複合赤潮。 7.4に阿曾浦のこの浦奥の5m層で <i>P. dentatum</i> 赤潮が確認された。7.10まで持続し、その後赤潮は解消したが、7.15まで遊泳細胞が確認された。最高細胞密度は7.8の10,470細胞/ml (奥, 5m層)であった。 7.8に同じくこの浦奥の5m層で <i>K. mikimotoi</i> 赤潮が確認された。初認は7.4であった。7.10まで持続し、7.11にはいったん終息した。ここまでの最高細胞密度は、195細胞/ml (奥, 1m層)であった。7.15には2,360細胞/ml (奥, 1m層)と再び赤潮化した。7.17には赤潮が終息していた。 7.8に同じくこの浦奥の5m層で <i>H. circularisquama</i> 赤潮が確認された。初認は7.4であった。7.11には湾全体に広がり、7.15には終息していた。最高細胞密度は、7.11の649細胞/ml (奥, 3m層)であった。遊泳細胞は7.15まで確認された。 なお、 <i>P. dentatum</i> は1,000細胞/ml以上を、 <i>K. mikimotoi</i> および <i>H. circularisquama</i> は100細胞/ml以上を赤潮とした。	不明	P. d. 3-5m K. m. 1-5m H. c. 1-5m	P. d. 10,470 K. m. 2,360 H. c. 649	無	南伊勢町・南島種苗センター

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km ²)	発生水深 (m)	最高細胞数 (細胞/ml)	漁業被害 (被害整理番号)	情報源
11 (S-7)	7.22-8.5	志摩度会 (英虞湾)	<i>Karenia mikimotoi</i> <i>Heterocapsa circularisquama</i>	2種の複合赤潮。 7.22に立神浦のB-1m層で <i>K. mikimotoi</i> 赤潮が確認された。初認は7.14であった。7.24には神明浦のB-1m層でも確認された。8.5まで持続し、その後赤潮は解消したが、遊泳細胞は9.1まで確認された。最高細胞密度は、7.28の立神浦の5,025細胞/ml (B-1m層)であった。 7.24に神明浦5m層で <i>H. circularisquama</i> 赤潮が確認された。初認は7.7であった。7.28には神明浦では赤潮は解消していたが、立神浦で赤潮化していた。この赤潮は7.28まで持続し、最高細胞密度は、7.24の神明浦の230細胞/ml (B-1m層)であった。	不明	K. m. 5-B-1m H. c. 5-B-1m	K. m. 5025 H. c. 230	無	三重県水産研究所、真珠研究会、(株)ミキモト
12 (S-8)	7.25-8.6	志摩度会 (阿曾浦)	<i>Karenia mikimotoi</i> <i>Heterocapsa circularisquama</i>	2種の複合赤潮。 7.25に阿曾浦のこの浦奥の5m層で <i>K. mikimotoi</i> 赤潮が確認され、7.30には浦全域に拡散した。8.4まで持続し、その後赤潮は解消したが、遊泳細胞は8.6まで確認された。最高細胞密度は、8.4の6,370細胞/ml (3m層)であった。 7.28にこの浦中央の5m層で <i>H. circularisquama</i> 赤潮が確認された。赤潮はこの8.6まで持続し、その後赤潮は解消したが、遊泳細胞は8.11まで確認された。最高細胞密度は8.4の549細胞/ml (3m層)であった。両種とも8.4以降細胞密度が減少する一方、8.4にこの浦奥の5m以深で貧酸素状態となり、8.5には3m層まで上昇した。貧酸素状態は8.12まで持続した。	不明	K. m. 3-8m H. c. 3-8m	K. m. 6,370 H. c. 549	無	南伊勢町・南島種苗センター
13 (K-3)	8.4	熊野灘北部 (錦湾)	<i>Ceratium furuca</i>	8.4に錦湾で <i>C. furuca</i> 赤潮による着色が見られた。細胞密度は541細胞/mlであった。	不明	0m	541	無	漁業者 三重県水産研究所・尾鷲水産研究室

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km ²)	発生水深 (m)	最高細胞数 (細胞/ml)	漁業被害 (被害整理番号)	情報源
14 (K-4)	8.8	熊野灘北部 (尾鷲湾)	<i>Ceratium furuca</i>	8.8に尾鷲湾で <i>C. furuca</i> 赤潮による着色が見られた。着色域は湾北部の古里沖が中心であったが、湾南部の大曾根側でも部分的に着色していた。最高細胞密度は487細胞/ml (大曾根沖シーバース東, 0m)であった。	不明	0m	487	無	三重県水産研究所・尾鷲水産研究室
15 (S-9)	8.29	志摩度会 (五ヶ所湾)	<i>Ceratium furuca</i>	8.29に五ヶ所湾内の東部で <i>C. furuca</i> 赤潮による着色が見られた。最高細胞密度は1,340細胞/ml (飯満, 0m層)であった。	不明	0m	1,340	無	南伊勢町・南勢種苗センター
16 (S-10)	9.11	志摩度会 (英虞湾)	<i>Heterocapsa circularisquama</i>	9.11に立神浦で <i>H. circularisquama</i> 赤潮が確認された。遊泳細胞は、赤潮発生前から先月に引き続き確認されていた。9.12には、赤潮は解消していた。最高細胞密度は、446細胞/ml (5m層)であった。遊泳細胞は減少しつつも9.22まで確認された。	不明	5m	446	無	三重県水産研究所, 真珠研究会
17 (S-11)	10.27-11.6	志摩度会 (五ヶ所湾)	<i>Karenia mikimotoi</i>	10.27に礫浦で <i>K. mikimotoi</i> 赤潮が確認された。10.29には湾の東側でも赤潮化していることが確認された。11.6まで持続し、最高細胞密度は、13,090細胞/ml (10.31, 迫間浦福浦0m層)であった。	不明	0-10m	13,090	無	南伊勢町・南勢種苗センター
18 (S-12)	10.30	志摩度会 (英虞湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	10.30に神明浦奥部及び立神浦奥部で <i>H. akashiwo</i> 赤潮が確認された。最高細胞密度は34,000細胞/ml (神明浦奥部0m層)であった。11.4には解消していた。	不明	0-2m	34,000	無	三重県水産研究所

【注】

- (1) 「整理番号」は、発生時期の順に一連番号を記載し、() 内には発生海域毎に一連番号を記載した。(I, S, Kはそれぞれ伊勢湾, 志摩度会, 熊野灘北部の各海域を示す。)
- (2) 2あるいは3海域にまたがって発生した場合は、各海域のそれぞれに発生したものとして扱った。従って、例えば2つの海域にまたがって発生した場合は、1つの発生に対して2つの整理番号を与え、発生件数は2件とカウントした。
- (3) 「発生時期」は、発生が確認された日から消滅日までを記載することを基本としたが、同一海域で発生、消滅(一時的な細胞数の減少)を繰り返したものについては、最初の発生から最後の発生まで(完全な赤潮の終息まで)を1単位として記載した。